

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	沖縄県うるま市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化	
3 実施計画の名称	うるま市文化遺産活用推進プラン			
4 実施計画期間	平成 29 年度 ～ 平成 31 年度			
5 実施計画の概要				
<p>本市の『平成28年度市政方針』の(2)「郷土に誇りを持ち、明日のうるま市を支える人を育てます」をもとに、文化財の保護と活用を目的とした『勝連城跡整備基本計画』(平成27年3月)やその観光と活用を目的とした『勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画』(平成25年12月)等を踏まえ、地域社会における民俗文化財等の伝統芸能の保存・継承に努め、地域資源としての活用を推進するため、下記の取り組みを実施する。また、実施計画期間においては、本市の文化遺産を保存・継承し、活用していくための体制の確立も目指す。</p> <p>※うるま市の『平成28年度市政方針』は、URL (http://www.city.uruma.lg.jp/userfiles/files/H28shiseihoushin%281%29.pdf)にある。</p>				
6 実施体制				
<p>本実施計画に係る全体の企画・調整や、各補助事業に係る指導等は以下の担当課が行う。</p> <p>文化課：各補助事業における文化財の取扱等に関する指導・調整等 商工観光課ほか：観光業務に関する連絡等 また、補助事業は次の団体が実施する。 うるま市伝統文化継承基盤整備事業実行委員会(委員長：仲尾清治) 構成団体(平敷屋エイサー保存会、うるま市観光物産協会等)</p>				
7 実施計画における目標と期待される効果			別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額：	0千円	平成29年度申請額： 7,816千円
	(2) 実施事業の概要	別紙②のとおり		
9 その他計画実施により想定される効果(定性的な効果を記載)				
<p>市民の地域社会の文化遺産に対する関心や意識が向上し、今後市民の力による地域の文化遺産の保存と、次世代への確実な継承とともに、地域の活性化が期待できる。また、行政と民間団体、文化財保護団体による連携・協力体制が構築されるとともに、『うるま市観光振興ビジョン』(平成19年3月)で目標(200万人)としている観光客の増加に寄与することができるほか、『勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画』(平成25年12月)等においても成果を図られる。</p>				
10 その他事業(自主財源、民間団体、他省庁等からの補助(支援)を予定している事業など)				
事業概要：	第25回ふるさと芸能デー事業(自主財源)			
事業概要：	第32回獅子舞フェスティバル事業(自主財源)			
事業概要：	伊波メンサー後継者育成事業(自主財源)			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等				
<p>本事業の実施により地域一体となって文化遺産の保存・活用を図る機運を醸成し、その資源を収集するため、平成27年度より市内の文化遺産をまとめ、『うるま市文化財要覧』(平成28年3月)を刊行した。今後も地域の文化遺産の悉皆調査を継続し、平成34年度以降を目途に歴史文化基本構想の策定を目指す。</p>				
12 担当部局				
地方公共団体 担当部局課	うるま市教育委員会教育部文化課(文化財係)			

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	伝統文化の継承体制の維持・確立						
評価指標区分 1 :	祭礼行事等の保存会会員数、保存団体数					(具体的な指標は次のとおり)	
具体的な指標 1 :	平敷屋エイサー保存会の会員数を増やす			関連事業:	事業①		
目標値 1 :	平成 29 年度	30 人	⇒	平成 31 年度	90 人		
設定根拠 1 :	平成28年度平敷屋エイサー保存会会員数を参考として、毎年度伸び率1.67倍と設定						
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
	人		人	人	人	人	人

様式 1 - 1 別紙②

8 (2) 実施事業の概要 別紙

事業①：	うるま市伝統文化継承基盤整備事業	実施団体：	うるま市伝統文化継承基盤整備事業実行委員会				
事業区分：	記録作成	事業期間：	平成 29 年度	～	平成 31 年度		
事業概要：	市無形民俗文化財の平敷屋エイサーに関する伝統行事及びその踊りの型を映像記録する。また、後継者の育成を目的に映像を活用し、市内の教育機関（図書館、資料館、公民館等）へ配布し、市民の教育教材としても活用する。さらにその文化遺産を観光資源として市の公式HP等にて発信し、普及拡大を図る。						
評価指標区分：	・ 保存会への新規入会者数			（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	平敷屋エイサー保存会の会員数を増やす						
目標値：	平成 29 年度	30 人	⇒	平成 31 年度	90 人		
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
	人		人		人		人